

WP-S 鋼板屋根仕様 施工計画要領書

ナルファルト塗膜防水露出(遮熱仕様)工法 NWW-M01-SP工法

(旧 NW0-300-88工法)

EMS 81566 / ISO 14001:2015 (本社・関工場)
FM 659551 / ISO 9001:2015 (本社・関工場)

(防水施工業者)

社 名 を 入 力

本 社 : 〒 住所を入力

(防水材料製造業者)

成瀬化学株式会社

本 社 ・ 工 場 : 〒519-1107 三重県亀山市関町木崎1703-3

東 京 本 店 : 〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-7

名 古 屋 営 業 所 : 〒451-0052 愛知県名古屋市西区栄生1-35-20

大 阪 営 業 所 : 〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満4-5-5 マーキス梅田ビル603

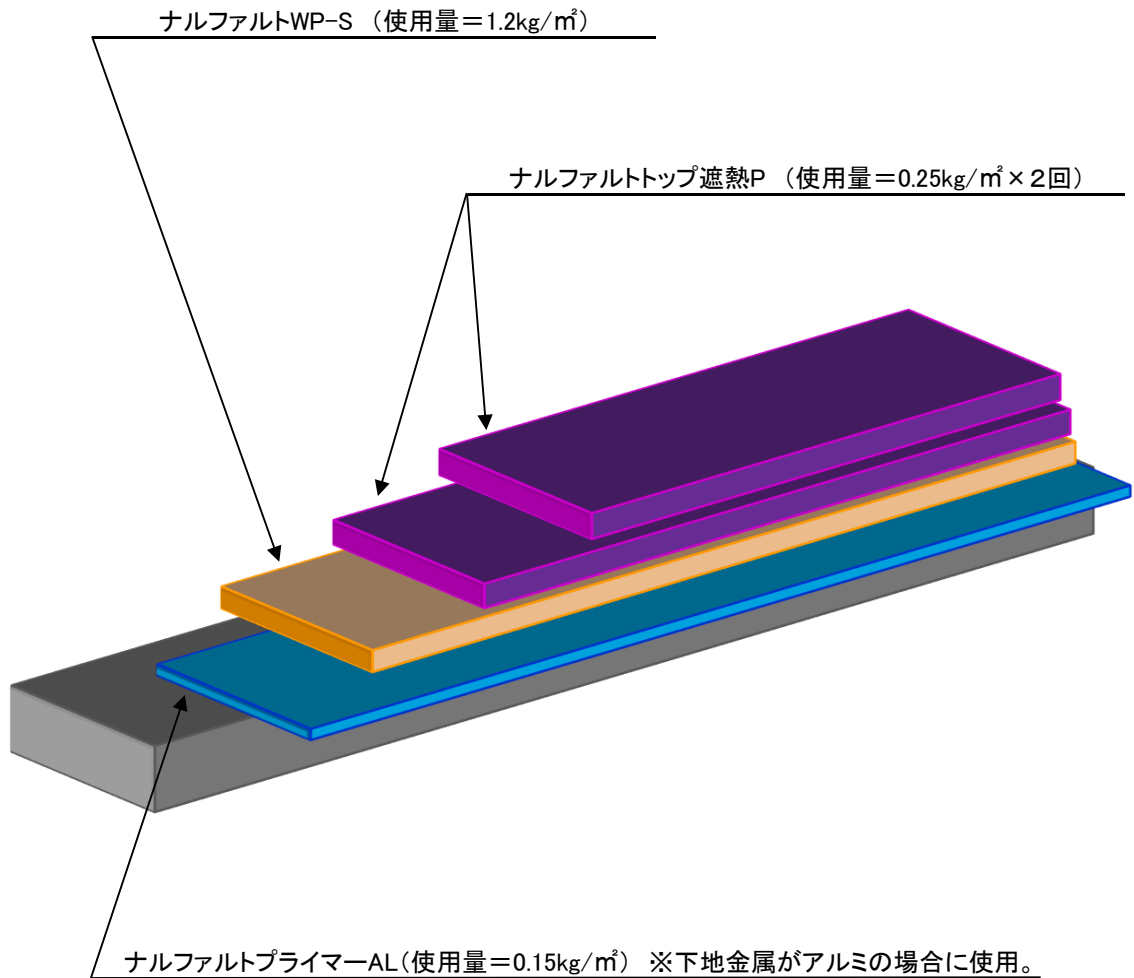
沖 縄 出 張 所 : 〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地1-1-1

目 次

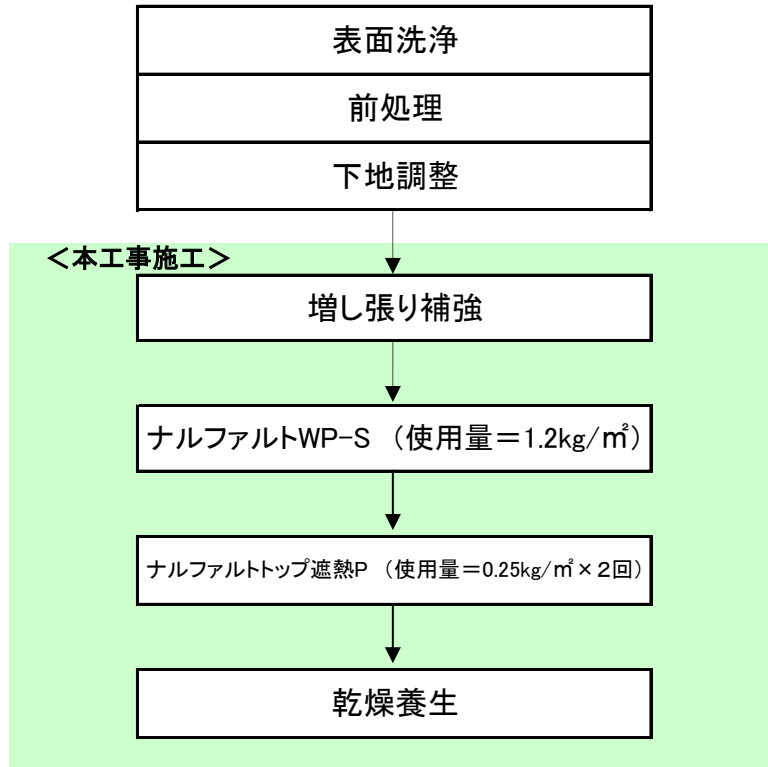
1	ナルファルト塗膜防水露出(遮熱仕様)工法 NWW-M01-SP工法	1.1 防水仕様
2	施工フローチャート	2.1 施工フローチャート
3	事前確認・準備工事	3.1 表面洗淨 3.2 前処理 3.3 下地調整
4	防水施工	4.1 増し張り補強 4.2 ナルファルトWP-S塗布 4.3 検査 4.4 防水層の保護 4.5 施工上の注意 4.6 特記事項

1.1
防水仕様防水仕様塗布量一覧(kg/m²)

項目	塗布量
ナルファルトWP-S	1.2
ナルファルトトップ遮熱P	0.25 × 2回



ナルファルト塗膜防水露出(遮熱仕様)工法 NWW-M01-SP工法



3 事前確認・準備工事

ナルファルト塗膜防水露出(遮熱仕様)工法 NWW-M01-SP工法

上記工法を施工するにあたり、事前に使用範囲に適しているか確認検討する。

3.1 表面洗浄

高圧水(水圧150kgf/cm²程度)にて表面洗浄を行う。

3.2 前処理

3.2.1 次の場合は別途板金工による手直しを行う。(別工事)

- ・瓦棒屋根で通し吊り子のハゼが緩んで口を開けている場合
- ・ボルトレス折板屋根の嵌め合い部分が外れている場合

3.2.2 折板屋根のボルト部は後述の特記事項に記載されたシール材を打ってボトルキャップを被せる。(別途費用)

3.3 下地調整

3.3.1 油分・薬品などを除去し清掃する。

3.3.2 スクレーパー・ワイヤブラシ・パワーブラシ・ディスクサンダーで3種ケレン(St.2相当)を行い、旧防錆塗装の劣化部分を除去し金属下地を出す。劣化していない塗膜(活膜)は残しても良い。

3.3.3 下地に穴があいて欠損になっている場合は、ケレン後パテ材やセメントを混入した固練りのナルファルトWPなどで穴を埋めて平滑にする。

3.3.4 既存のシール材は撤去し、後述の特記事項に記載されたシール材に打ち替える。

3.3.5 金属下地を出した部分はサビ止め塗料(弱溶剤型変性エポキシ樹脂系を推奨)を部分塗布する。

※ 補足

アルミ地の場合はナルファルトプライマーALを刷毛・ローラーなどで0.15kg/m²塗布する。

4 防水施工

4.1 増し張り補強	<p>4.1.1 増し張り補強を行うのは以下の箇所である。 通し吊り子のハゼが緩んで漏水している箇所・ボルトレス折板の嵌め合いで漏水している箇所 穴補修箇所・棟包みのジョイント箇所(板金の合わせ目)・シール打ち箇所</p> <p>4.1.2 増し張り補強にはナルファルト不織布(幅200mm)もしくは寒冷紗を使用し、 ナルファルトWP-Sで張り付ける。 ナルファルト不織布および寒冷紗が収まりにくい場合はナルファルトWPを使用する。</p>
4.2 ナルファルトWP-S塗布	<p>4.2.1 ナルファルトWP-S (使用量=1.2kg/m²)</p> <p>7.2.1.1 ローラー(短毛5mm程度)・刷毛・ヘラ(ポリウレタンフォーム製等)で塗布する場合 塗布量は0.4kg/m²を3回均一に塗布する。 3回の塗布で1.2kg/m²に満たない場合は複数回塗り合計塗布量を1.2kg/m²とする。</p> <p>4.2.1.2 吹き付けの場合 1.2kg/m²を1回で均一に吹き付ける。</p> <p>4.2.1.3 乾燥養生 ナルファルトWP-S塗布完了後、十分に乾燥養生を行う。</p>
4.3 検査	<p>指触診断 ナルファルトWP-Sの乾燥を確認する際は指触診断を行う。</p> <p>a) 指に水を付けナルファルトWP-S防水層表面を擦り、ナルファルトWP-Sが茶色に戻り 指につかないことを確認する。</p> <p>b) 入り隅や配管廻りなどナルファルトWP-Sが厚付けされて乾燥の遅い箇所は入念に確認する。</p>
4.4 防水層の保護	<p>露出保護材(トップ仕上げ)</p> <p>ナルファルトトップ遮熱Pを開封し、ハンドミキサーでよく攪拌する。 ナルファルトトップ遮熱Pを刷毛・ローラー等でムラ無く均一に0.25kg/m²を塗布する。 乾燥後、同様に2回目を0.25kg/m²塗布する。 施工中、及び施工後夜間に降雨の恐れのある場合は塗布を中止すること。</p>

4 防水施工

4.5 施工上の注意

- 4.5.1 ナルファルトWP-Sは気温5°C以上で保管・施工を行う。
水性のため低温での保管・施工は凍結による機能低下、品質不良を招く恐れがある。
- 4.5.2 施工に際しては標準施工要領書を理解した上で施工する。
- 4.5.3 下地のサビはしっかりとケレン除去すること。サビを残してナルファルトWP-Sを塗布すると水性のため乾燥硬化過程で表面にサビが浮き上がり、仕上げを損なう恐れがある。
金属下地が露出した箇所は弱溶剤型変性エポキシ樹脂系のサビ止め塗料を塗布すること。
- 4.5.4 ナルファルトWP-Sの主成分であるアスファルトは可塑剤に触れると反応して硬化不良を起こすため、シール材に可塑剤が含まれていないことを必ず確認する。(後述、特記事項参照)
ノンブリード型といわれるシール材には微弱の可塑剤を含む商品がある。
ナルファルトWP-Sの塗膜にシールを打つ場合も同様に注意する。
- 4.5.5 欠損部や穴はサビを落としてパテで穴埋めし、ナルファルトWPを塗布してカットしたナルファルト不織布で補強張りをすること。
市販の粘着型の防水テープはナルファルトWPより接着力が低いため、ナルファルトWPを引き剥がす恐れがある。使用はしないこと。
- 4.5.6 ナルファルトWPを使用する際は必ずセメントを混入する。
その際のセメント重量比は夏場は0.5%、冬場は1%である。
但し夏場の外気温が上昇して可使時間が短くなる場合は重量比0.3%まで下げる。
セメントは同量の清水で溶いてノロにして混合し、ハンドミキサーでよく攪拌する。
セメントノロを混入したナルファルトWPは乾燥・硬化が速まる為、1時間以内に使い切る。
- 4.5.7 水希釈(水で薄める)は一切行わない。
水希釈すると機能低下・品質不良(接着力の低下・伸び弾性の低下・乾燥硬化の著しい遅延・膨れの発生・乾燥硬化後の再溶解など)が生じる。
- 4.5.8 屋外施工は天候の良い日を選び、塗布後に降雨・降雪・結露・凍結の恐れのある場合は施工を避ける。
- 4.5.9 翌日に降雨・降雪・凍結の恐れのある場合は夕方近くの場合は夕方に施工を避ける。
翌朝に十分な乾燥が得られず流出・凍結する恐れがある。
- 4.5.10 日照の得られない北面や通風の無い個所で乾燥の遅延が予想される場合は、前日の内に施工見合わせを検討する。
- 4.5.11 塗布量が少ないと十分な性能が得られないため、標準塗布量を厳守する。
- 4.5.12 塗布用具は塗布後直ちに水につけて乾燥硬化を防ぐ。
用具の洗浄は水で行い、使用する際は十分に水を切って使用する。
- 4.5.13 保護トップ材を塗布する前にナルファルトWP-Sが十分乾燥硬化したかどうか確認する。
指触診断法(指に水滴をつけてナルファルトWP-S表面を擦り、再溶解しないことで判定)推奨。
- 4.5.14 乾燥したナルファルトWP-Sの表面に乗る場合は、靴底にナルファルトWP-Sが付着していない靴を履く。
ナルファルトWP-S同士が接着して塗布した表面を損傷する恐れがある。
- 4.5.15 予期せぬ降雨等によってナルファルトWP-Sが再溶解した場合は、
雨上がり後そのまま放置して乾燥硬化を待つ。
溶解(黒色から茶色にもどる)したナルファルトWP-Sに乗ると、損傷が広がる。
十分乾燥硬化した後に、不良箇所に再塗布する手直しを行う。
- 4.5.16 取扱いにあたっては製品安全データシート(MSDS/SDS)を参照する。

ナルファルトWP-Sとシールの相性について
ナルファルトWP-Sは、シール材に含まれる可塑性によって反応を起こす場合がある。
防水下地及び防水後の取合いのシールは 以下の材料を使用する。

ナルファルトWP-Sと反応しないシール材(可塑性を含まない)製品
1成分型

オート化学工業製 オートンシーラー101NB
オート化学工業製 オートンノンブリードQィック

2成分型

コニシ製 MSシールNB

2成分型を使用する際の注意点

- ①薄膜未硬化を起こす可能性があるのでテープ養生を行う。
- ②テープ養生からはみ出さないようにプライマーをしっかり塗布する。
- ③シール充填後、2日以上養生期間を置く。
- ④攪拌時間・施工注意点はシーリング材メーカーの要領に準拠する。

相性試験の結果として剥離等が起こる為、以下の2成分型は推奨しない。

ハマタイト製 スーパーⅡNB
サンスター技研製 MS2500typeNB